

# この人となら…！



結婚して、はや6年。時にはケンカをすることもありますが、おかげさまで夫婦仲良く暮らしております。

1



初対面の印象は「ほとんどなかった」と言っても過言ではないほど???


ちよつと手が早いよ

2



ああ、やっぱりこの人といると楽しいんだ、私

3



結婚前、彼と1泊2日の京都旅行へ行った時のことです。

4



帰りの新幹線の切符を失くしてしまったよ

グス

『旅にトラブルは付き物』


5



ホテルにも戻って探しましたが（彼も付き合ってくれました）出てこずで

やっぱり無い

6



僕も半分は出で、悲しむなら、一緒に旅を楽しもう。さあ、一緒に乗るよ。

7



なんてステキで、カッコいいことを言ってくれるんだ！

8

この人となら…!



# この人となら…！

## 編集後記

この出来事、良いですね～。何かあった時に、こんな行動ができれば良いなと思います。こんな行動ができれば、ホレるんだろうなと思います。編集長の妻に言わせると、ポイントは切符代『半分』の補填らしいです。一緒に生活していくためには、そこが大切だと言われて納得しました。

## 資料

### MEMたん;「この人となら…！」婚活中の女性医師が結婚を決めた瞬間, m3, 20220921

主人と結婚して、はや6年。時にはケンカをすることもありますが、おかげさまで夫婦仲良く暮らしております。そこで今回は、私たちの結婚生活がうまくいっている理由をお伝えします。婚活に悩む人にとって、この記事が少しでも参考になればうれしいです。

#### 過去の恋愛とは全く違った、初対面の印象

結論からお伝えすると、私たちが夫婦円満に暮らしているのは“結婚相手に選ぶべき人”をしっかり見極められたからだと思っています。

実は、私の過去には初対面の印象で相手に好意を寄せて失敗した経験が多々ありました。しかし主人の場合、初対面の印象は「ほとんどなかった」と言っても過言ではないほど最初に会った時の印象を覚えていないのです。

もともと写真から「笑顔のかわいらしい男性だな」という印象を抱いていたのですが、初対面の時は2人ともスーツを着ていたので（結婚相談所から服装を指定されていたため）そこに「爽やかな人」という印象が加わったくらい。良くも悪くも特にこれといった印象がなく、むしろ「なんの印象もない」くらいでした。ですので初めて会った時に「あ、この人だわ！」といった感覚を覚えることも、全くありませんでした。ただ、今思えば「だからこそ初対面でも特に緊張することなく話せたのかな」と思います。

主人は同じ年ということもあり、初対面の時から気兼ねなく質問し合える感じでした。そして会話が滞ることなく続き、気が付くと「初回は1時間」という制限時間をとっくに超えている」という状態だったのです。

その後、何度会っても時間の流れを早く感じられたことで

「ああ、やっぱり。この人といると楽しいんだ、私」

と、少しずつ確証を得ていったのです。

ですが私が「この人となら」と思ったのは、それだけが理由ではありません。

実は、そう思うきっかけとなった出来事があるのです。

#### 旅行先でハズニング！ その時、彼が…

結婚前、彼と1泊2日の京都旅行へ行った時のことです。

その旅行はとて楽しく、良い思い出をたくさん作って帰るつもりでした。

ですが、やはり旅は旅…。

『旅にトラブルは付き物』と言いますが、その言葉通り私は帰りの新幹線の切符を失くしてしまったのです（いまだになぜ失くしたのかは分かりません）。

自分の持ち物を血まなこになって探しましたが、全く見当たらず…。ホテルにも戻って探しましたが（彼も付き合ってくれました）出てこずで…悲観した私は「自分が悪いのだから帰りの切符は自分で買い直す」と、彼に告げました。

すると彼は、こんなことを言ってくれたのです。

「僕も半分出すから、あまり悲しまないで。1人で荷を背負っちゃいけないよ。切符を失くしても一緒に楽しく旅をした時間に変わりはないんだから。ツライことも一緒に乗り越えよう」

正直、内心では

「なんだと———！？ なんてステキで、カッコいいことを言ってくれるんだ！」

と思いました。

「悪いのは失くした自分だから、自分が切符代を払って然るべき。頭ごなしに怒られても仕方のない事態だ」

そう思っていたのに、それを2人の問題として受け止めてくれて、さらにツラさまで分かち合ってくれるなんて…。

「彼が私でも、こんな言葉を言えたか…？ いや、ない。だからこそ、彼、すごい！（語彙力崩壊）」

と、この時は自分の器の小ささすら感じました。

そして

「この人となら、結婚しても、いろんな困難が待ち構えていても、1個ずつ一緒に乗り越えていけそうな気がする。むしろ、頼れる」

そう思わせてくれました。

今考えても「彼の人柄を知るために切符がどこかに行ってしまったのではないか」と思うくらい、私にとっては印象的な出来事です。

結果、この出来事がきっかけで私は「彼と結婚したい」と心の底から思うようになりました。

#### まとめ

結婚には、乗り越えないといけない波がたくさんあります。

例えば私の場合、親の反対、結婚式、不妊治療などの困難が襲いかかってきました。今では育児に奮闘中です。

それらの困難を、夫婦2人で乗り越えていかなければいけない——。

それが、結婚です。

だからこそ“一緒に立ち向かい、乗り越えられるか”というのは結婚相手に必要な要素だと思います。

要するに、結婚相手を決める場合においては“一緒にいることでお互いの問題解決能力が高まる状態になれるかどうか”が大事なのではないのでしょうか。

そして私が今でも夫婦仲良く暮らしているのは、その見極めがうまくいったからなのだろうと思います。

婚活をしている人は、ぜひ“今”だけでなく“結婚をした後”のことも想像しながら進めてみてください。8